

GLOBAL ACCOUNTING

Chapter 14

引当金の会計

本章の目的

- 国際会計基準審議会(IASB)の会計観や会計基礎概念である概念フレームワークから、引当金の会計について、以下の点を理解する。
 - 引当金の意味
 - 引当金の認識および測定方法
 - 日本の引当金概念との相違とその理由
- 引当金の会計は、日本の会計基準と相違していて、その相違は、まさに日本の会計基準が国際財務報告基準(IFRS)に完全に収斂することのできない原因にも関係していることが明らかになる。

【APPENDIX 14-1】日本の引当金

- **発生主義**に基づいて、当期の収益に対応する費用を、**適正な期間損益計算**を行うため、
- また**保守主義**の観点から、企業に不利な影響を及ぼす可能性に備えるための健全な会計処理を行うために計上される。
- 企業会計原則注解〔注18〕
 - ① 将来の特定の費用または損失であって、
 - ② その発生が当期以前の事象に起因し、
 - ③ 発生の可能性が高く、かつ、
 - ④ その金額を合理的に見積もることができる場合に、
- 当期の負担に属する金額を**当期の費用または損失**として引当金に繰り入れ、当該引当金の残高を**貸借対照表の負債の部または資産の部**に記載するものとする。

SEC.1 引当金の意味

- ・ **引当金**

- ・ **時期**(timing)または**金額**(amount)が**不確実**(uncertainty)な

- ・ 引当金とその他の負債との相違
- ・ 仕入債務(trade payable)、発生項目(accruals)等との相違は、決済時に必要な将来の支出の**時期**と**金額**の**不確実性**にある。
- ・ 引当金は、1910年代よりドイツを中心に、動態論のもと適正な期間損益計算を行うために検討されるようになり、その後イギリス、アメリカ等でも用いられるようになった。
- ・ 日本においても、引当金は、将来の損失に備えるために、利益留保項目として利用されていた積立金、準備金等の勘定と区別した勘定として考えられてきた。

SEC.2 引当金の認識

- **引当金**は、以下のすべての条件を満たした場合に認識される。
 - ① 企業が過去の事象の結果として、**現在の** () (法的または推定的(constructive)) を有していること
 - ② 当該債務を決済するために、**経済的便益**を有する**資源の** () が必要となる**可能性が高い**こと
 - ③ 当該債務の金額について、 () **のある見積もり**ができること

- IASBの2018年**概念フレームワーク**

- **負債の定義**および**認識規準**において、**蓋然性の閾値**が削除

⇒**資源が流出する可能性**に関しては、認識要件から除去される可能性？

- IAS第37号は、将来の、 () (operating losses) に対して、引当金を認識することを禁止

⇒これは、営業資産の**減損の可能性**を示すものであり、資産の () (impairment test)が行われる。

SEC.3 引当金の測定

- ・ **引当金**として認識される金額

- ・ 報告期間の末日における現在の債務を決済するために要する支出の
（ ） (best estimate)

- ・ **最善の見積もり**

- ・ 債務の決済または移転を行うために、企業が合理的に支払う金額である。
- ・ これは、さまざまな状況を考慮して、最終的には企業の（ ）
の判断により決定

- ・ **引当金**として認識すべき金額

- ・ 状況に応じてさまざまな**不確実性**が存在する場合、**確率により加重平均して見積もられた値**（ ） (expected value)
- ・ 引当金の対象となる事象が長期にわたる場合、**貨幣の時間的価値**の影響を考慮した（ ） (present value)

CASE STUDY 14-1：引当金の最善の見積もり

- ・ 下記の【資料】に基づいて、引当金として認識すべき金額を計算しなさい。

【資料】

- ・ 機械販売会社は、顧客に対して、機械販売後6ヵ月以内に製造上の欠陥が明らかになった場合の修理費用を負担することを保証している。
- ・ 販売されたすべての製品から軽微な欠陥が発見された場合、修理費用は1,000,000円発生する。
- ・ 販売されたすべての製品から重大な欠陥が発見された場合、修理費用は4,000,000円発生する。
- ・ 企業の過去の経験と将来の予測によると、次年度、販売機械の75%には欠陥はなく、20%に軽微な欠陥があり、5%に重大な欠陥が生じる可能性がある。

【解答】

- ・ $0\text{円} \times 75\% + 1,000,000\text{円} \times 20\% + 4,000,000\text{円} \times 5\% = 400,000\text{円}$

SEC.4 引当金の変動

- ・ **引当金**は、報告期間の末日に再検討され、新たな**最善の見積もり**を反映するように修正されなければならない。
- ・ 債務を決済するために資源の流出の可能性が高くない場合には、引当金を（ ）なければならない。